

大すきだよ！ モモちゃん

主題名 生きものを大切に

内容項目 自然愛護

身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。

ねらい

身近な生き物に親しみ、動物に優しく接しようとする心情を育てる。

主題設定の理由

指導内容について

自分たちを取り巻く自然環境を大切にしたり、動植物を愛護したりすることに関する内容項目である。

日本人は、自然との調和を図りながら生活を営んできた。自然と一体となりながら動植物を愛護し、豊かな情操を育んできたのである。しかし現代、科学技術の進歩等に伴い、人間が本来もっていた感性

や資質が弱くなってきてしまっている。

そこで、身近な生き物に親しみ、動物に優しく接しようとするのが大切となってくる。生き物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度は、持続可能な社会の実現が求められている中で、特に身につけるべきことである。

児童について

この段階においては、生活科の学習や日頃の生活で、身近な自然の中で遊んだり、自然と親しんだりする活動を行うことが多い。動植物に直接ふれる経験も多く、興味関心も高い。その反面、興味本位で花を折ったり、虫を捕まえて殺してしまったりすることも少なくない。

児童のこうした活動や体験を通して、自然に親し

み生き物に優しく接しようとする心情を育てることが大切になってくる。

そこで、生き物を育てることは命を預かることであり、責任を伴うことであると感じ取らせ、身近な生き物に親しみ、動物に優しく接しようとする心情を育てることが必要である。

教材の特質について

本教材は、主人公が、目の見えない犬を苦労しながらも大切に育てていく話である。動物を飼うということは、その動物の命を預かるということであり、責任を伴うことであると感じ取らせる。また一緒に大きくなるということについても、掘り下げて

考える必要がある。

「ぼく」の心情を考えさせることを通して、身近な生き物に親しみ、動物に優しく接しようとする心情を育てることができる教材である。

出典：木下美紀作

評価のポイント

- ① 身近な生き物を大切に育て、動植物に優しい心で接しようとする心情を育てることができたか。
- ② 生き物を育てるということは、責任を伴うことだと感じ取ることができたか。

導入

1. 生き物を育てた経験話し合う

- 生き物を育てたことはありますか。
- ・家でカブトムシを飼っている。
- ・犬を飼っていて、毎日散歩している。
- ・金魚を飼っていたけれど、死んでしまった。

- 生き物を飼ったことがないという児童でも、公園などで身近な生き物と触れ合った経験は多かれ少なかれあるはずである。触れ合った経験を思い出しながら教材への方向付けとする。

展開

2. 教材「大すきだよ！ モモちゃん」を読んで話し合う

- ①「この犬、かっていい。」と言った「ぼく」は、どんなことを考えていたのでしょうか。
- ・かわいいな。
- ・ぜったいに育てられるよ。
- ・なんとしても飼いたい。
- ②モモの世話をしているとき、「ぼく」はどんなことを考えたのでしょうか。
- ・犬のお世話は思ったより大変。
- ・責任感をもってがんばるんだ。
- ・モモもがんばっている。ぼくもがんばる。
- ③「これからもぼくといっしょに大きくなるうね。」という言葉には、「ぼく」のどんな思いがこめられているのでしょうか。
- ・世話は大変だけど、モモが大好きだよ。
- ・モモがいてくれるから、ぼくも元気になれる。
- ・モモ、一緒にいてくれてありがとう。

- 犬がかわいいからと、安易に飼おうとしている「ぼく」の気持ちを考えさせる。
- 飼う前の「ぼく」が意欲に満ちあふれていることに気付く。

主体的・対話的で深い学びのために

- ◆世話が大変で、投げ出したくなる「ぼく」の気持ちを考えさせる。
- ◆それでも、がんばりたいと思う気持ちもあり、揺れ動いている「ぼく」の気持ちを感じ取らせる。

評価 多面的・多角的な考え方により、価値理解を深めることができたか。(発言、観察)

3. 自分たちの生活について振り返る

- ④生き物を育てて、楽しかったことや大変だったことはありますか。
- ・ミニトマトの水やりは大変だったけれど、芽が出たときはうれしかった。
- ・毎日えさをあげていたのに、金魚が死んでしまって悲しかった。
- ・うちの犬と毎日散歩するのは大変だけど、一緒にいると友達みたいで楽しい。

- 自分の体験を想起させることで、本時の学習が自分たちに関わりがあることを理解させ、今後の実践につなげる。
- 大変だったこともあるが、動植物を育てることの良さに焦点をあてながら話し合いを深める。

終末

4. 教師の説話を聞く

- 生き物を育てたり大切にしたりした教師の体験談を聞く。

- 教師が育てたことのある動植物や、学校で育てている動植物の話をするすることで、児童に興味関心をもたせる。

大すきだよ！ モモちゃん



板書

板書例と指導の流れ

自分の体験を想起させることで、本時の学習が自分たちに関わりがあることを理解させ、今後の実践につなげる。

大すきだよ！ モモちゃん

「この犬、かっていい。」

モモの世話をしているとき

これからぼくといっしょに大きくなろうね。

板書例

- ・ かわいいな。
- ・ ぜったいに育てられるよ。
- ・ なんとしてもかいたい。
- ・ お父さんがなんと言ってもかいたい。

- ・ 犬のお世話は思ったより大変。
- ・ なんでかうって言っちゃったんだろう。

- ・ せきにんかんをもってがんばるんだ。
- ・ モモもがんばっている。ぼくもがんばる。

- ・ モモが大好きだよ。
- ・ モモがいるから、ぼくも元気になれる。
- ・ モモ、いっしょにいてくれてありがとう。



授業の流れ

(1) 生き物を育てたことはありませんか。その時どんな気持ちでしたか。

(2) 「大すきだよ！ モモちゃん」を読みます。

(3) 「この犬、かっていい。」と言った「ぼく」は、どんなことを考えていたのでしょうか。

(4) モモの世話をしているとき、「ぼく」はどんなことを考えたのでしょうか。

(5) 「これからぼくといっしょに大きくなろうね。」という言葉には、「ぼく」のどんな思いがこめられているでしょう。

(6) 生き物を育てて、楽しかったことや大変だったことはありますか。

(7) 先生が育てていた生き物の話をします。

授業を活性化させるコツ

◆生活科の学習を想起させよう

1、2年生の生活科では、様々な動植物との触れ合いがある。その経験を想起させることは、この時期大変有効である。また、生活科で育てた動植物は、全員に共通した話題である。生活科で扱った動植物を育てて思ったことを聞くことで、全員が同じ目線で教材を読むことができる。

◆これからの実践意欲を伸ばす問いかけをしよう

この時期の児童は、むげに生き物を殺してしまった経験をもっていることが多い。改めて自分の行為を振り返り、これから動植物とどう関わっていきたいのか考えさせる。道徳的实践意欲を育てることが重要な内容項目の教材である。



教材の吟味・具体的な活用方法

本教材の構造

(1) 育てたいという気持ちと、育てていく中での苦労に焦点を当てて考える。

本教材は、主に3つの場面から構成されている。

- ① モモを飼うことになったきっかけ
- ② モモを育てることの大変さ
- ③ モモを育てて気付いたこと

①で、安易に飼おうとしていたこと、②で、育てることの大変さ、③で、それでも育てることの良さややりがいに気付かせて、身近な生き物に親しみ、動物に優しく接しようとする心情を育てる。

(2) 犬から、動植物、自然に話を広げていく。

今回のお話に出てくるのは、犬のモモである。動物を飼っていない児童でも学べるように、展開後段では、犬に限らず様々な動植物に話を広げられるようにする。終末でも、教師が飼ったことのある生き物や、学校で飼育している生き物の話をして、犬から、動植物、自然に話を広げていく。



「考え、議論する」授業のポイント

道徳的価値を理解させるために

モモを育てる大変さについて考え、ねらいとする価値に迫らせよう

自然愛護の価値を理解するためには、ただ「かわいい」や「育てたい」という気持ちからでは迫ることができない。モモを育てる大変さを感じる「ぼく」の気持ちになって気付くことがある。育てる苦労についてしっかり考えさせることが大切である。

自己を見つめさせるために

育てていた生き物について事前アンケートをしよう

目の見えない犬を飼うことは、非日常の体験である。しかし、大なり小なり生き物を飼った経験をもつ児童も少なくない。その経験を想起させることで、教材を自分のこととして読むことができる。生活科で育てた植物について想起させるのもよい。

多面的・多角的に考えさせるために

自分の育てた経験をもとに話し合おう

「ぼく」の「これからぼくといっしょに大きくなるうね。」という言葉には、様々な意味がこめられている。しかし、自分のこととして考えていないと、この言葉の意味が想起できない。大変でも育てたいという気持ちを、自分の育てた生き物との経験をもとに話し合わせることで、多面的・多角的な学びになる。

自己の生き方についての考えを深めさせるために

学校や家で育てている生き物についても考えよう

導入で自分が育てていた経験を想起させ、教材で登場する犬の「モモ」について考える。最後にまた自分が育ててきた経験に戻ること、自分がこれからどう動植物と関わっていきたいか考えを深めることができる。

指導内容の系統性・発展性、各教科等との関連

道徳科（2年）——自然愛護

9「しぜんのいのち」（しぜんをたいせつに）

24「ごめんね、みなみ」（生きものとくらすためには）

「大すきだよ！ モモちゃん」（生きものを大切に）

生活科——動植物の飼育・栽培